

# 令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号

146

江戸川区立鹿骨東小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	0	0	0	令和8年度の目標	-5.0	-5.0	-7.0	-9.0	-9.0	-7.0	-1.0	-3.0
令和7年度の結果	0	-2	-2	令和7年度の結果	-9.4	-11.6	-11.8	-9.2	-3.4	-5.6	1.0	0.0
令和6年度の結果	-10	-12	-22	令和6年度の結果	-12.4	-16.9	-1.9	-5.4	-0.1	-1.0	-8.4	-10.2
令和5年度の結果	-10	-12	-22	令和5年度の結果								

  

年度	令和7年度		令和8年度			
内容	成果と課題		目標		目標達成に向けた取組	
学校全体	(成果) 第6学年は国語が全国水準を上回り、算数も概ね全国並みで推移している。 (課題) 国語・算数とも全国平均との差が大きく、応用・記述式や「読む・書く」「思考・判断・表現」で差が出ている学年がある。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年で学習過程を共通化し、記述式・応用問題の正答率向上と無解答の低減を図る。</li> <li>・算数は「思考・判断・表現(説明する力)」を重点化し、文章題・図形等でのつまづきを系統的に改善する。</li> <li>・授業内で補充・再確認を行うことで、学年をまたぐつまづきの持ち越しを減らす。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6年生を中心に「よむYOMUワークシート」を行い、読み取り、自身の意見を言う活動を通して、記述する力や問題を読む力を伸ばす。</li> <li>・国語は語彙・言語事項と「情報の扱い方(表・図・メモ等)」を教科横断で扱い、根拠をもとに書く活動を継続する。</li> <li>・算数は弱点単元(例:図形、対称、位取り等)を系統整理し、操作→作図→理由説明の学習を計画的に行う。</li> <li>・漢字のミニテスト→直し→再確認をし、つまづきを早期に回収する。</li> <li>・研修等で得た授業改善の知見を校内で共有し、学年を超えた共通実践として定着させる。</li> <li>・スマイルネクストやドリルパークなどのオンラインドリルを利用し、既習事項の確認をする。</li> </ul>	
第1学年	(成果) 学習の型(聞く・まねる・書く・提出する)が少しずつ定着してきている。 (課題) ひらがなの習得差、語彙の不足、数のまとまり(10の構成)と加減の理解差が残りやすい。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらがなを正確に読み書きし、短い文(2～3文)で経験を表せるようにする。</li> <li>・10のまとまりを基に、たし算・ひき算の考え方を身に付ける。</li> <li>・文章題を「わかっていること→式→答え」の型で取り組めるようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日短時間ルーチン(音読・語彙/数と計算)を実施し、授業内で反復する。</li> <li>・ミニテストを行い、学習内容を補完する。</li> <li>・宿題は固定メニュー(音読+文字+計算)とし、確認・直しまでするようにする。</li> </ul>	
第2学年	(成果) 学習の型が整い、短い文章を書くことや計算練習に取り組む姿が増えている。 (課題) 漢字・語彙、読解の手順、くり上がり・くり下がりや九九につながる数量感の差が出やすい。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・配当漢字の読み書きを定着させ、理由とともに短い文章(3～5文)を書けるようにする。</li> <li>・くり上がり・くり下がり計算と九九(意味理解→暗唱→活用)を確実にする。</li> <li>・文章題で図や式を用いて考えを説明できるようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・読む手順を学年で共通化し、読むことでも書くことでも短い記述を継続して実施する。</li> <li>・計算は手順を統一し、九九は段階指導(意味→暗唱→活用)で毎日短時間反復する。</li> <li>・宿題の回収を徹底し、誤りは訂正させる。</li> <li>・「九九マスター」でかけ算九九を確実にできるようにする。</li> </ul>	
第3学年	(成果) 基礎領域(漢字の読み書き、計算の一部)に一定の到達が見られる。 (課題) 国語・算数とも全国平均との差が大きく、応用・記述式で無解答も含めた伸びしろが大きい。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語: 記述式・応用の正答率を高め、平均正答率の全国差を縮める。</li> <li>・算数: 応用・記述式の無解答を減らし、式・図・言葉で説明する力を伸ばす。</li> <li>・語彙・資料の読み取りを改善する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よむYOMUワークシート」を通して「答え+理由」を書くことへの抵抗感を減らす。</li> <li>・国語は語彙を豊かにするために辞書活用を習慣化し、表・図・メモから「分かったこと→根拠→まとめ」を反復する。</li> <li>・算数は文章題の型(条件→式→答え→説明)を統一し、穴埋め型→自力記述→段階支援する。</li> <li>・「九九マスター」でかけ算九九を確実にできるようにする。</li> </ul>	
第4学年	(成果) 算数ではデータの活用など一部領域に一定の到達が見られる。 (課題) 国語は「読むこと・書くこと・記述式」、算数は「図形」および位取り(大きな数)で課題が大きい。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語: 読むこと・書くこと・記述式を重点化し、説明的文章の理解と根拠を示す記述を改善する。</li> <li>・算数: 図形領域の達成率を高め、全国との差を縮める。</li> <li>・位取り(兆・億等)を確実にし、数量の関係を図や式で説明できるようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よむYOMUワークシート」を通して「答え+理由」を書くことへの抵抗感を減らす。</li> <li>・算数は図形を「操作→作図→説明」でセット化し、作図・理由説明の時間を確保する。</li> <li>・位取りは位取り表等で具体化し、「何倍」「どれだけ」を図や式で説明させる。</li> <li>・宿題は誤りを直させ、つまづきを早期に解消する。</li> <li>・「九九マスター」や「100マス計算」でかけ算九九を確実にできるようにする。</li> </ul>	
第5学年	(成果) 基礎領域は一定の到達が見られる。 (課題) 国語・算数とも全国平均との差があり、特に応用・記述式および「思考・判断・表現」で差が大きい。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語: 平均正答率の全国差を縮め、記述式・応用の正答率を改善する。</li> <li>・算数: 思考・判断・表現と応用・記述問題の正答率を高める。</li> <li>・無解答を減らし、「根拠を示して書く」「式・図で説明する」学習を定着させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よむYOMUワークシート」を通して「答え+理由」を書くことへの抵抗感を減らす。</li> <li>・算数は文章題を「条件整理→立式→説明」の型で統一し、習熟度に応じた課題で反復する。また、数直線を活用し、理解、説明しやすくする。</li> <li>・授業内容の再確認をし、つまづきを持ち越さない。</li> <li>・ペア/グループで解法説明の共有時間を確保し、説明する力を伸ばす。</li> <li>・「九九マスター」や「100マス計算」でかけ算九九を確実にできるようにする。</li> </ul>	
第6学年	(成果) 国語は全国水準を上回り、算数も概ね全国並みで推移している。 (課題) 国語は「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」、算数は「対称な図形」「立体図形」など単元の弱点が明確である。学力層差も大きい。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語: 「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」を改善し、資料を根拠に説明・記述できる力を高める。</li> <li>・算数: 「対称な図形」「立体図形」の弱点単元を改善し、全国水準を確実にする。</li> <li>・個別支援を行い、下位層の底上げと無解答率の低減を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よむYOMUワークシート」を通して「答え+理由」を書くことへの抵抗感を減らす。</li> <li>・国語は語彙・言語事項を「知る→使う→書く」で定着させ、資料読み取りと記述をセットで反復する。</li> <li>・算数は対称を「操作→作図→理由説明」で段階指導し、立体は系統整理と類題反復で定着を図る。</li> <li>・到達目標を段階化し、A層は伸長課題、D層は最小ステップ課題で無解答を防ぐ。</li> <li>・授業内で振り返りと解法共有の時間を確保し、思考過程の言語化を促す。</li> </ul>	